



ぼん き あか あお はな 1本のアジサイの木に赤と青の花がまじっているのはどうして

アジサイは、七変化といわれるほど色変わりしやすい

アジサイは、もともと七変化といわれるほど、色変わりする性質が強い植物です。花の色のもとになるのは色素で、数種類の色素が植物の中にあります。種類のちがう色素の含まれる割合がちがえば、花の色は少し変化します。また、同じ割合で色素があっても、植えられた土地の質や生育状況でも、花の色はちがってきます。

同じ株のアジサイでも、花の咲き始めと散るころとでは、花の性質がちがいますので、花の色は少しずつ変化してきます。七変化とは、このような性質をいったものです。昔、武士の間では、このように色を変える性質が知られていたそうです。

アントシアニン

アジサイに含まれている色素はアントシアニンです。この色素は、橙赤、赤、紫、青、水色までの広い範囲の、しかも目立った色を出します。酸性で赤、中性で紫、アルカリ性で青と色が変わります。

アジサイの色は、アントシアニンとほかの補助色素とアルミニウムの含まれる量で決まるといわれています。アントシアニンができてくるにしたがい赤い色になります。アントシアニンができるころには、ほかの補助色素もできてきて色が変わります。さらに、土壌にアルミニウムが多く含まれていれば青色が出てきます。

えだ ね どじょう りょう 枝ごとに根をたどると、土壌のアルミニウム量がちがう

1本のアジサイも、広い範囲に根をはっています。枝ごとに、性質のちがう土中にはった根につながっているのかもしれませんが。その土壌のアルミニウムの量がちがえば枝ごとに色がちがってきます。（監修・中山 周平）

